

横浜市

超小型モビリティの大規模カーシェアリング「チョイモビ ヨコハマ」

(横浜市)

1 これまでの経過

横浜市では、低炭素交通の推進、都市の移動のクオリティアップのために平成23年度から超小型モビリティを活用した実証実験を進めてきた。

平成23年度は、国内初の公道走行であったため、走行エリアを山手・元町に限定し、抽選による試乗を行った。平均勾配が14%であったが、十分な登坂性能を確認できた。

平成24年度は、試乗にとどまらず、利用者の目的に応じた使い方を提供するために、8台導入し3時間半を1コマとしたレンタカーを2か月半実施した。結果、508名が利用し、アンケート結果では、また利用したいとの回答が9割を超えており、超小型モビリティに対する評価は非常に高かった。

一方で、利用時間が3時間半では観光には短く、日常生活での移動には長すぎると様々な意見が寄せられた。利用者の目的が多岐に渡っており、多様化したニーズに対応することも必要であることが分かった。

これまでの結果から、乗りたい時に乗り、降りたい時に降りるという気軽な移動手段として活用すべく計画した。

2 チョイモビ ヨコハマの実施

国土交通省から補助金、車両認定の支援を受け、平成25年10月から1年間の実証実験としてスタートした。

実施主体は過年度同様に日産自動車と横浜市で、行き先で返せるワンウェイ型のカーシェアリングとして、都心エリアに70か所のステーションを設け(図1)、車両台数は100台導入する予定である。

車両にはGPSを搭載し、利用者も随時車両の位置、空き状況を確認することができる。利用するには、ス

クルマが変わる。
ヨコハマが変わる。
チョイモビ
ヨコハマ



マートフォンで地図上に表示された車両を予約し、予約した車両のカードリーダーに会員カードをかざせば運転できる。気が向いたときに気軽にチョイ乗りすることがコンセプトであり、ITS技術がなければできなかった取組である。(図2)

無人での貸渡し・返却システムを導入することで人件費を抑え、ビジネスモデルとして確立することを検証する。

利用料金は1分20円で、運行時間は8時から20時である。

メディア露出が多いこともあり、会員登録者数は、運用開始から約3か月で約6,000人と好評を得ている。車両台数が50台であるが、今後増加する予定である。

利便性を高めるためには、車両台数、ステーション(図3)を数多く用意することが不可欠あるが、自動車メーカー、自治体だけでは限界がある。本実証は、30を超える企業・団体から無償でステーション場所の提供を受けることで成立しており、まさに地域が一丸となって取り組んでいる。

3 おわりに

横浜市は「環境未来都市」として、今後も地域のニーズ、特徴などを踏まえながら、ITSを活用した交通の低炭素化を進めたい。

図1 チョイモビステーション(参考：H23、H24走行エリア)



図2 予約イメージ



図3 ステーション

